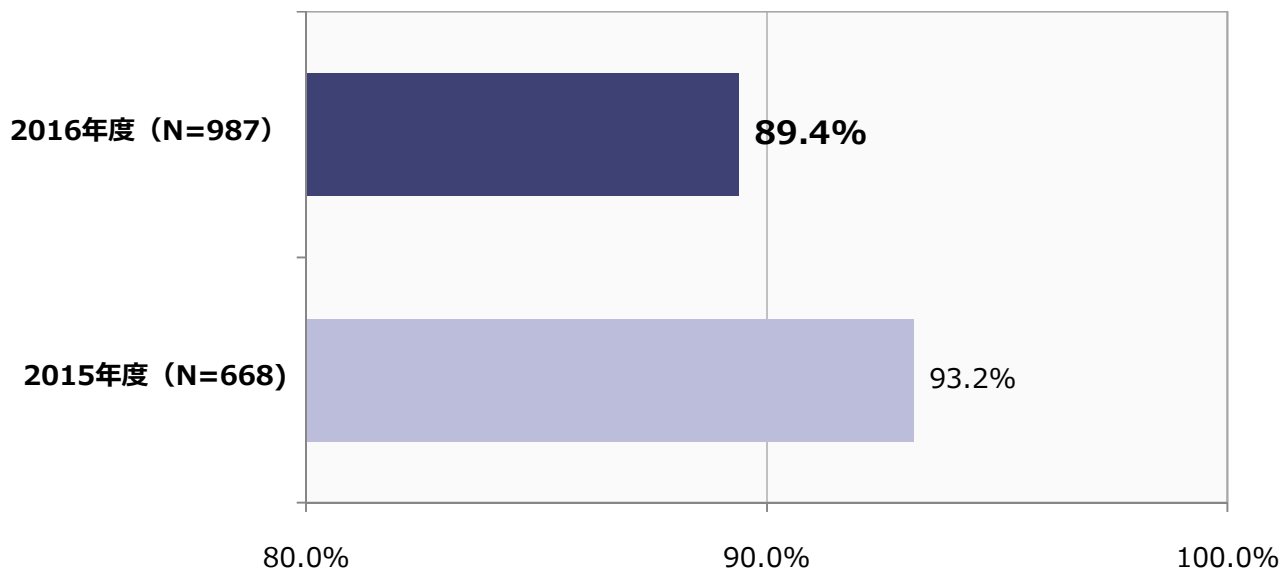


ステロイド性骨粗鬆症の予防をしている割合

ステロイド性骨粗鬆症はステロイド治療における重要な副作用のひとつです。

しかし、過去のガイドラインの遵守率は20%程度と低いものでした。

2014（平成26）年に10年ぶりにステロイド性骨粗鬆症ガイドラインが改訂されスコアリングシステムが導入されました。その結果、速やかな管理ができることを期待されています。



当院値の定義・算出方法

分子：骨粗鬆症の一次予防をしている患者数

分母：経口ステロイド剤を三ヶ月以上使用中か使用予定で、骨折危険因子のスコア ≥ 3 の患者数 (= N)
(ただし18歳未満、妊娠を希望する女性を除く)

※グラフ中のN数は分母の値を示しています。

考察および改善策について

昨年はガイドラインの遵守率が予想以上に良好であったため、維持する方針としました。

しかし、今年は遵守率が下がってしまう結果となりました。全体的にN数が昨年よりも増えたことが影響していると考えています。

文責：膠原病内科主任部長
井上 久子